



ベトナムの交通事情

北陸銀行 ホーチミン駐在員事務所
所長

山田 太一



ハノイ市内の大気汚染と交通渋滞（筆者撮影）



はじめに

皆さんは「ベトナム」と聞いて、はじめに何を連想しますか。美味しい「ベトナム料理」や華やかな民族衣装「アオザイ」、独特な風味を持つ「ベトナムコーヒー」など有名なものは多々ありますが、まず思い浮かべるのは街中の道路に溢れかえる「バイク」の数と、朝夕のラッシュアワー時に鳴り響くクラクションの音ではないでしょうか。

「ハノイやホーチミンの街中では道路を横断することができなかった」という話は、冗談のように聞こえるかもしれませんが、実際に現地に来られた方からは、こうした体験談があちこちで聞かれます。正直なところベトナムに駐在している私も、「交通事故に遭ったらどうしよう」という一抹の不安が頭をよぎります。

そこで今回のレポートでは、ベトナムの交通事情についてまとめてみました。



交通事故の状況

二輪車（バイク）と四輪車（自動車）の所有状況についてベトナムと日本を比較すると、図表1のとおりに、ベトナムはバイクの台数が圧倒的に多く、自動車が多い日本とは正反対の状況です。

ここで、交通事故数と交通事故死者数をみると、ベトナムの事故数は日本の26分の1と圧倒的に少ないにもかかわらず、死亡者数は日本の2.4倍となっていることがわかります。この要因としては、ベトナムでは小規模な事故は警察に届け出をしない、といった生活習慣が影響しているとみられます。また、毎年発生する交通事故の約7割がバイクの絡む事故であることも一因といえそうです。

2022年12月、The Swiftest（米国のデータ分析会社）が、世界の主要旅行先50カ国の「旅行安全指数」を発表しています。指数を構成する7つの要素のうち、（観光客にとって運転が最も危険な場所を意味する）「道路交通死亡率」は、ベトナムが第4位となっています。不名誉なランキング第1位はドミニカ共和国で、人口10万人あたりの道路交通

図表1 ベトナム国内の交通事故発生状況

項目／年別	ベトナム				日本	特記事項
	2019年	2020年 (飲酒規制)	2021年 (ロックダウン)	2022年	2022年	
人口(万人)	9,648	9,758	9,851	9,946	12,203	人口は日本の約8割
四輪所有数(万台)	431	465	—	※501	8,260	二輪の比率は日本の11%に対しベトナムは94%
二輪所有数(万台)	6,173	7,206	—	—	1,054	
交通事故数	17,626	8,177	11,495	11,450	< 300,839	交通事故数は日本の26分の1だが死亡者数は日本の2.4倍
交通事故死亡者数	7,624	6,700	5,799	6,384	> 2,610	

出所：IMF-World Economic Outlook Databases、ベトナム国家交通安全委員会、警視庁の各HPより情報を得て筆者作成
※2023年3月15日現在、—データ未取得

死亡率は64.6人。以下、サウジアラビア、タイと続き、ベトナムが30.6人で第4位。ちなみに日本は3.6人で、ベトナムとは8.5倍の開きがあります。ベトナムの交通事故死率が高い要因としては、交通渋滞、不十分な法執行、低い運転技術、道路状況の悪さなどが指摘されています。



自賠責保険の加入状況

ベトナムにおいてもバイクの所有者には自賠責保険に加入する法的義務がありますが、保険監督管理局が公表したデータによると、バイク所有者の自賠責保険加入率は3割程度にとどまっています。

バイク保険の保険料と保険金額は図表2の水準ですが、保険加入が進まない理由の一つとして、交通事故が発生してもすぐに保険金が支払われない問題があると指摘されています。

図表2 バイク保険の保険料（1年間）と保険金額

保険料 (VND:ベトナムドン)		保険金額 (VND:ベトナムドン)	
50cc以下	55,000(約330円)	対人	最大150百万(約900千円)
51cc以上	60,000(約360円)	対物	最大 50百万(約300千円)

また、交通違反で止められた際、通常は公安から免許証と自賠責保険証の提示を求められます。保険証がない（＝無保険）場合、「交通違反に対する罰金」のほかに、「無保険であることに対する罰金」を払う必要がありますが、罰金を払うだけで保険に加入しない事例が多数報告されており、自賠責保険自体の加入についての厳格化が求められます。なお、自動車所有者の自賠責保険加入率は約87%で、保険料・保険金額は図表3のように設定されています。

図表3 四輪車保険の保険料（1年間）と保険金額

保険料 (VND:ベトナムドン)		保険金額 (VND:ベトナムドン)	
6席未満	437,000(約2,620円)	対人	最大150百万(約900千円)
12～24席	1,270,000(約7,620円)	対物	最大100百万(約600千円)

こうした保険の加入状況から、ベトナムで交通事故にあった際には加害者側から金銭的補償がまったく得られないケースも想定されるため、交通事故に関しては最大限注意を払う必要があります。

ベトナムに進出している日系企業の社員・家族の場合、日系の損害保険会社を通じて別途「搭乗者保険」などの任意保険を付保するのが一般的な慣行になっています。この場合、交通事故の過失割合に関係なく、搭乗者1人あたり最大6000千円、最大4人まで保険金の支払が受けられます。

一方、観光客が事故にあった場合、言語が障壁となって関係当事者との意思疎通に時間を要する場合が想定されるため、加入した保険会社のサポートに頼ることになるでしょう。なお、負傷した場合、現地警察が医療機関に搬送する手配を行ってくれる、という点はありがたく感じられるかもしれません。



ベトナム特有の交通ルール

ベトナムで交通事故にあうリスクを低減するためには、現地の交通ルールについて理解しておくことが重要です（図表4）。

図表4 「知っておきたい！」ベトナムの交通ルール

項目／国別	ベトナム	日本
通行方向	右側通行	左側通行
特殊ルール	「常時右折可」 （標識または専用レーンのある場所）	「常時左折可」 （標識のある場所）
バイクの走行車線規制	片側2車線：右側車線 片側3車線以上：右側2車線	—
原付バイク人数制限	2人 （一定年齢以下の子供を除く）	1人
優先順位	（事実上）大型車優先	歩行者優先
クラクション	近づく際の合図	危険回避

例えば、日本では「歩行者優先」が大原則ですが、ベトナムでは大型車が事実上優先されます。実際に、バスやトラックが直進車を制して右左折する光景はよく目にしますし、バイクは止まって待っているのが暗黙のルールとなっています。



おわりに

ベトナムで生活するにあたっては、仕事面だけではなくて日常生活環境にも十分配慮する必要があります。交通事情や医療事情を理解しつつ



4人が乗る原付バイク（筆者撮影）

「交通事故にあうリスク」をできる限り抑えるための知識を身に付けておくことは有意義です。皆さんもベトナムにお越しになられる際には、是非本稿を参考にいただければと思います。